

都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム

背景 ○都市型社会問題

本校が位置する世田谷区は、高齢化、外国人増加、都市型災害対策などの**都市型社会問題**に対して、「地域・住民が主体となる街づくり」、「区民がいきいきと活動・交流する場づくり」を掲げて対策を進めており、保健福祉や教育など様々な領域と連携した施策や**地域住民の区政等への参加**が求められている。

○2020年東京オリンピックに向けた取組み

2020年**東京オリンピック・パラリンピック**における、世田谷区の「2020年に向けた世田谷区取組み～東京2020大会後を見据えて～」の指針に基づき、観光やスポーツ、国際、福祉、教育などの観点から自治会、NPO団体、大学等と連携のもとで**ボランティアの拡充**などの取組みを進めており、**地域住民の参加**による活動の高まりが期待されている。

実施体制



令和元年度の目標

- ・包括的な連携コンソーシアムの立ち上げと連携事業の開始、ならびに高大連携の促進を図る。
- ・地域課題への関心を高め、地域社会と積極的に関わろうとする人材を育成する。
- ・探究プログラムの体系的な構築と他教科との横断的な関連性を高め、論理的な思考力など21世紀型能力・資質の育成を図る。
- ・グローバルプログラムとローカルプログラムの確立と相互のクロス化により探究活動の質の高度化を図る

取組状況

- ・コンソーシアム連携委員会を立ち上げ。海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員を設置し、世田谷区や地域団体、昭和女子大学、ブリティッシュスクールとの連携事業を開始。
- ・しもきた商店街やオリンピック関連イベントなどの大型プロジェクトをコンソーシアム主体で立ち上げ。
- ・ワークブックを作成し、学習→活動→学習のサイクルを設定。各教科授業では6つの指標を設定し、授業開発の促進を図った。SDGsを軸にした「SDGs開発授業」を高校1年生で推進。開発授業は冊子にまとめて継続的に運用する。
- ・グローバルプログラムは実践活動を目標とし、課題解決の具体的な取り組みの考案を行った。両プログラムは相互の発表の機会を設定し、活動経験をブリッジした。

成果と課題

- ・コンソーシアムを主体とする地域プロジェクト企画は、生徒の希望と地域のニーズをマッチさせ、具体的な取り組みとしてスタートさせることができた。活動のカテゴリ化、マッチング機能の充実を進め、コンソーシアム発の企画を増加させていきたい。
- ・SDGsなど明確な指標を設けることは授業開発に大いに効果があった。SDGsを軸とした内容的な横断性のある授業開発を進めたい。また、カリキュラムマネジメントとして教科・分掌ごとの活動カレンダーを作成した。今後はその実施結果や改善点などをまとめ、PDCAサイクルを回して継続的な運用を図る。
- ・LABO研究の実践活動は生徒の発案による多様な取組みが実施され、テーマの理解をより具体化するうえで有効であった。LABO2のジェンダーかるたは好評で、区内の教育機関への頒布を目指している。ただ、コンソーシアムによる連携がローカルプログラム(サービスラーニング)に偏ってしまった。LABO研究でもグローバルな活動が地域へ還元されていくようコンソーシアムを活用したい。
- ・活動のクロス化の機会は多く設定できたが、思考や価値観の共有にとどまった。今後は生徒の思考に働きかけ、自身の経験として生かすことができるよう、e-ポートフォリオの徹底や生徒の実態の数値的な把握を進める。